

立川 TACHIKAWA RECOLLECTION STORY

今昔物語

のどかな農村に開通した甲武鉄道

明治初期の立川は、稲作や畑作、養蚕などを営む農村でした。のどかな農村だった立川に大きな変化をもたらす契機となったのは、1889(明治22)年の甲武鉄道開通です。それまでは人通りもまばらだった村には商店が立ち並び、多くの人でにぎわうようになりました。その後も青梅線・南武線・五日市線の乗り入れや多摩都市モノレールの開通などを経て、多摩地域有数の交通の要衝として発展してきました。

1930(昭和5)年開設間もない立川駅南口▶

▼朝夕を問わず多くの人を訪れる立川駅の改札



立川市は12月1日に市制施行80周年を迎えます。多摩地域の中心都市の一つとして発展を続けている立川ですが、それは連続と受け継がれてきた歴史の中で築き上げられたものです。立川の「いま」と「むかし」を比較してこれまでのあゆみを振り返るとともに、立川のこれからを考えてみましょう。

◎広報課 広報広聴係・内線2745
写真 歴史民俗資料館・広報課

発展を後押しした基地跡地の開発



◀1952(昭和27)年ごろ
英字の看板が目立つ高松町大通り

▼4月に新しい商業施設が開業しにぎわうサンサンロード



かつて立川には陸軍の飛行場があり、戦争の激化とともに空襲によって多くの被害を受けました。終戦後は米軍に接収され「基地のまち」と呼ばれていました。1977(昭和52)年に基地が全面返還された後は、広大な跡地を活用した整備が進み、国営昭和記念公園や国や都の施設、フェアレ立川と呼ばれる業務・商業市街地地区、各種商業施設など、魅力あふれるコンテンツが相次いで完成しました。

人が行き交う「交差点」から人が集う「交流点」へ



◀1970年代ラッシュの中、足早に通勤する人々

▼市内外から多くの人を訪れる立川いっつい音楽まつり



甲武鉄道の開通に端を発する交通の利便性に、広大な基地跡地を活用した大規模な開発が加わり、立川は他の地域にはない魅力をもつまちになりました。現在はこの特性を生かして、アートや音楽、スポーツなど、多岐にわたる分野で立川を拠点にしたイベントや活動が行われています。立川は、人が行き交い「交差」するまちから、人々が目的をもって訪れ、交流し文化を育む「交流」の拠点へと進化しています。目覚ましい進化を続ける立川からは今後も目が離せません。

INTERVIEW

立川の昔×今×未来

立川の好きなところや魅力、これからどうなってほしいかなどについて、立川に詳しい3人の方に聞きました。

都会すぎず、田舎すぎないところが好き

扉が開かれているまち

自分が住むまちについて知ってほしい

私のおすすめスポットは国営昭和記念公園です。みんなの原っぱの芝生の上で友達とのんびりするのが好きです。立川は、わざわざ渋谷まで行かなくても大体のことは済ませられたり、駅から少し離れば自然もあつたりして、都会すぎず、田舎すぎないバランスのとれたまちだと思います。これからも開発が進むと思いますが、自然や公園などの癒やしの部分も残っていくといいと思います。

立川の魅力は、一言で言うと「受容性の高さ」だと思います。イベントなどを企画する際に、まちに決まったカラーやイメージがあるとそれを前提としたアイデアを考えがちですが、立川には決まったカラーがなく、それが逆に個性になっていると感じます。新旧が共存し、多様なジャンルが受け入れられている、扉が開かれているこのまちで仕事ができ毎日ワクワクします。

立川市と砂川町が合併して今年で57年になりました。旧立川市は飛行場と商業のまち、砂川町は、養蚕や桑畑、麦やさつまいもなどを中心とした農村で、それぞれ異なる歴史や習慣がありました。合併以来まちの発展とともに、地域の歴史や習慣が急速に失われてきました。自分の住むまちの歴史や成り立ちと、これからどうなっていくのかということに、もっと関心を持ってほしいと思いますね。

川井茜音さん

2001年生まれ。昨年まではジュニアリーダー、現在は青年リーダーとして活動。生まれも育ちも羽衣町の生粋の立川っ子。



岡崎未侑さん

1992年生まれ。立川市地域文化振興財団の職員として、立川の文化・芸術分野のさまざまな事業企画や運営に携わる。



豊泉喜一さん

1930年生まれ。立川民俗会の会長を2003年から務め、立川の歴史・民俗・習慣などを調査する活動を行っている。



ぐるりんミニクイズ

JR立川駅北口の赤いアーチ。
2012(平成24)年までは何色だったでしょうか?

答えはほかのページのどこかにあるので、探してみてください。



年	出来事
明治14年3月	柴崎村から立川村へと改変
明治22年4月	立川村、村制施行、甲武鉄道(JR中央線)開通
大正11年11月	立川飛行場開設、陸軍飛行第五大隊移転
大正12年12月	立川村、町制施行
昭和15年12月	立川町、市制施行
昭和29年6月	砂川村、町制施行
昭和33年12月	立川市庁舎(錦町)落成
昭和34年12月	サンバーナデイン市アメリカ・カリフォルニア州と姉妹市締結
昭和38年5月	立川市、砂川町合併
昭和43年5月	西武鉄道、拝島線営業開始
昭和52年11月	米軍立川基地が全面返還
昭和57年9月	立川駅南北自由通路開通
昭和58年10月	国営昭和記念公園一部完成、開園式
平成3年3月	長野県大町市と姉妹都市締結
平成6年10月	フェアレ立川まちびらき
平成10年11月	多摩都市モノレール事業北區間、開業
平成11年4月	立川駅南口駅前、ペストリアンデッキ一部開通
平成12年1月	多摩都市モノレール全線開業
平成13年1月	立川駅北口ペストリアンデッキ開通
平成15年4月	都市軸分(サンロード)開通
平成22年5月	立川市役所、錦町から泉町に移転
平成28年8月	立川駅西側、新自由通路開通

立川市のあゆみ

編集こぼれ話 今も昔も映画のまち



1955(昭和30)年ごろ 立川駅北口にあった「立川セントラル」



全国から作品が集まる「立川名画座通り映画祭」

テレビが普及していなかった時代、映画は数少ない娯楽の一つでした。市内には最盛期に10館もの映画館があり、「映画のまち」と呼ばれていました。名画座通りやシネマ通りなど、現在の地名にその名残があります。近年は、ミニシアターやシネマコンプレッ

クスなどの映画館の開館が相次いだり、かつての名画座をしのいで「立川名画座通り映画祭」という自主製作映画の祭典が開催されたりするなど、映画カルチャーは立川のまちに確実に受け継がれています。